

■ホール棟の改善内容について

現状のホール棟の課題に対し、どのような改善策が考えられるかを以下に示す。
(これらは既存ホールを活かしながら計画可能)

1. 舞台環境の改善

- 音響反射板の収納方式の改善により、舞台上の吊物機構の自由度を上げ、舞台照明等の演出可能性が広がると、より幅広い利用用途が可能となる。

2. 音環境の改善

①音響反射板の更新

- 天井反射板・側面反射板共に転換しやすい反射板にすることで、利用の多い音楽系利用の音響改善のニーズに対応できる。

②防音性能の向上

- ホール全体天井面への遮音性能を高め、ホール側面ガラスの改善を行うなどにより、防音性能の向上を図ることができる。

3. バリアフリー等の改善

①バリアフリー化やアクセシビリティへの配慮

- 現在は、ホール入口に段差があり、車いすの方などはスロープでアクセスする必要があるが、段差を無くすことで、誰でもアクセスしやすくなるよう検討する。

②トイレの改善

- 客席トイレの和便を洋式化し、なるべく多くのトイレを配置するよう検討する。

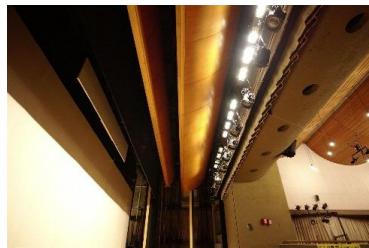
4. 客席空間を用いた演出可能性の拡大

- 本施設の建設時当初は、客席前方部は平土間であった。移動観覧席の導入による平土間利用等、多彩な演出も可能になるよう検討する。

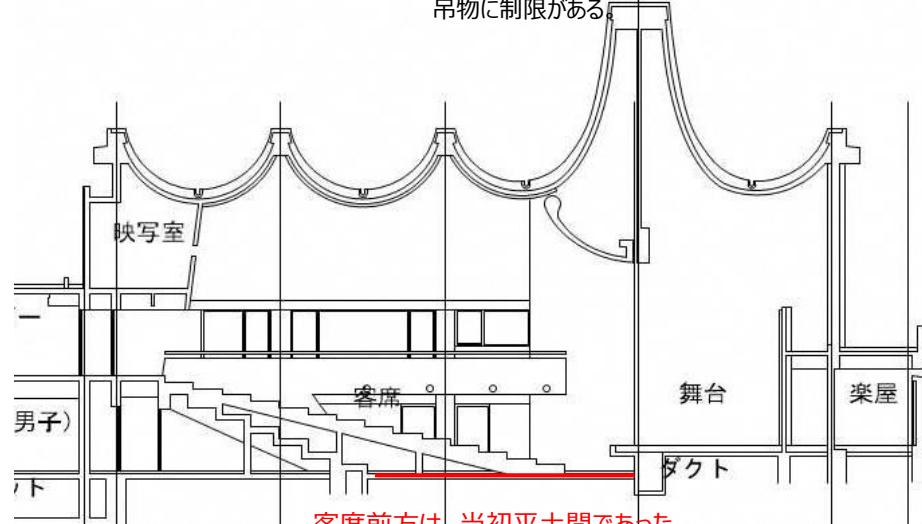
現在の武蔵野公会堂（ホール棟）



魅力的な客席内観



既存の天井反射板は固定のため吊物に制限がある



→

新しい武蔵野公会堂（ホール棟）の改善イメージ



平土間イメージ（ファッション関係イベント）



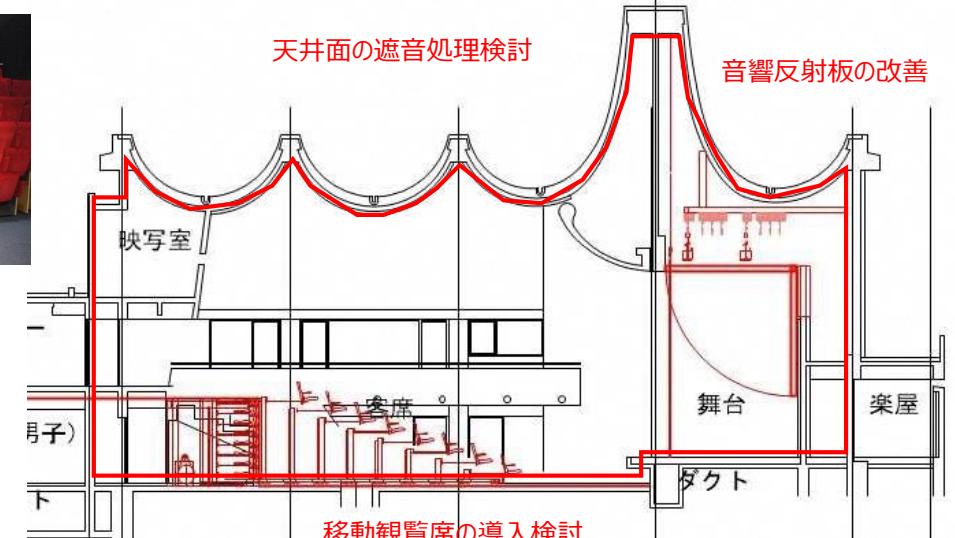
平土間イメージ（クラブイベント）



壁から上に開く天井反射板の事例。



高性能な移動観覧席



【凡例】○：主用途、△：舞台規模、設備、遮音性能等により制約あり
×：舞台規模、設備、遮音性能等により、通常の規模・形式では実施が困難

5. バックエリアの改善

①搬出入口

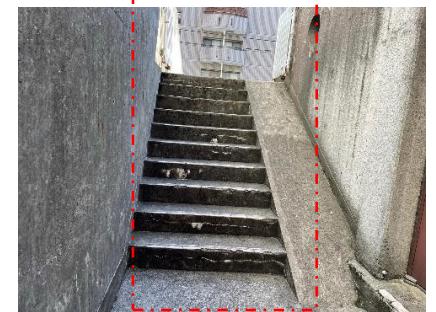
- 現状は段差があり、人力で荷物を手運びしている。大型EVの導入などの方法で、段差を解消し、スムーズな搬出入とすることを検討する。

②舞台袖

- 既存の楽屋スペースの活用（楽屋は別に設置）や吊物設備更新等により、舞台袖の拡充を検討する。

■用途表 ※昭和39（1964）年に『集会所』として開設。

	音楽系						演劇系						映像	集会								
	生音系			電気音響系		その他	邦楽系			洋楽系												
	オーケストラ	室内楽	リサイタル	合唱	歌唱	ポピュラー	演歌	ロック	邦楽・民謡	民族音楽・実験音楽	邦楽	洋楽	ミュージカル	歌舞伎	演劇	パフォーミング	伝統芸能	能・狂言	映像	Eスポーツ	集会・会議	
改善前	×	×	○	○	○	○	△	△	△	○	×	×	△	△	△	×	×	△	×	○	×	○
改善後	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	△	○	○	×	×	○	○	△	○	○	○



段差のある搬出入口（EV設置を検討）



搬入EVのイメージ